

第33号

# 奈良 国立博物館 だより

平成12年 4・5・6月

## 特別展

### 明 王 —怒りと慈しみの仏—

東・西新館

4月29日(土)～6月4日(日)

## 特別出陳

### 唐招提寺 国宝木心乾漆薬師如来立像

本館

4月4日(火)～

## 特別陳列

### クリーヴランド美術館蔵 大般若経厨子 (仮称)

西新館

4月29日(土)～5月21日(日)

## 平常展

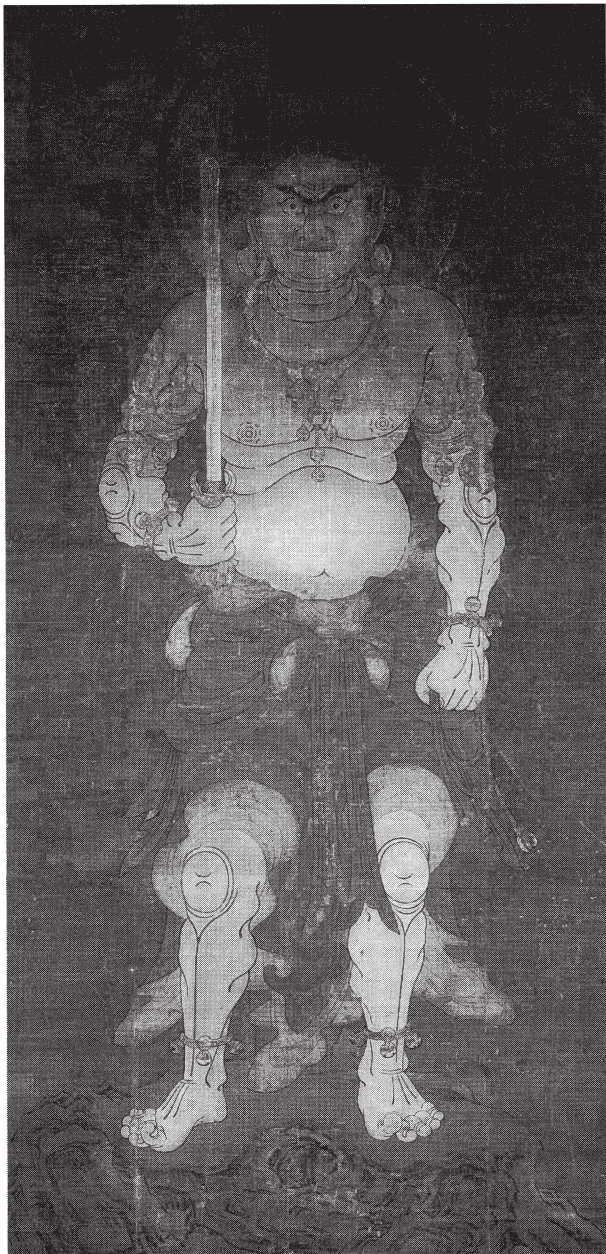
### 仏教美術の名品

本 館：4月4日(火)～

西新館：6月20日(火)～

〔写真解説〕 国宝 絹本着色不動明王像（曼殊院）

肉身が黄色であることから、黄不動と呼ばれる。筋骨隆々とした体躯で、条帛を着けず、岩座上に立っている。顔は正面向きで、両眼を見開き、両牙を上にもき出して、大きな耳飾をつけており、不動明王として異例の姿である。園城寺の黄不動像を根本像とし、それよりも装飾性が増している点に特徴がある。





## 特別展

みょうおう

### 明王 —怒りと慈しみの仏—

東・西新館 4月29日(土)～6月4日(日)

仏像は大きく仏・菩薩・明王・天の4種類に分けることができます。このうち明王は、忿怒の相をあらわし、慈悲相では容易に教化することのできない衆生を導くという役目をもっています。その姿は多面多臂ではげしい動きを見せたり怪異な形相をあらわすなど、仏教像の中でもっとも変化に富んでいます。

我が国では平安時代初期の密教の受容とともにもたらされました。明王への信仰は各時代を通じてあつく、さまざまな願いをこめた修法が行われ、それにともない優れた明王像が数多く生み出されました。主な明王像には不動明王に代表される五大明王像(不動・軍荼利・降三世・大威徳・金剛夜叉/烏枢瑟摩)や愛染明王像のほか、例外的に慈悲相をあらわす孔雀明王像のような美しい明王像もあり、なかには強い信仰の故に図像的な制約を離れ自由な発想で制作された明王像も見られます。

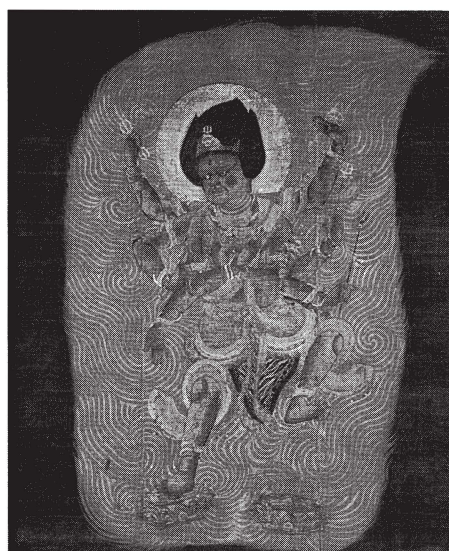
この展覧会は各時代を代表する名品を一堂に会するもので、この展示を通して華やかな展開をみせた明王像の種々相をご覧ください。

#### 【主な展示品】

●絹本著色軍荼利明王像(五大明王像のうち)(東寺)、●絹本著色黄不動像(曼殊院)、●絹本著色大威徳明王像(談山神社)、●絹本著色孔雀明王像(法隆寺)、●五大明王像(醍醐寺)、●不動明王坐像(正智院)、●不動明王立像(浄栄寺)、●不動明王及二童子立像(峰定寺)、●孔雀明王坐像(金剛峯寺)、●愛染明王坐像(西大寺)、●金銅五大明王鈴(東京国立博物館) ●大毘盧舎那成仏神変加持経(西大寺)



●愛染明王坐像(西大寺)



●絹本著色軍荼利明王像  
(五大尊のうち)(東寺)

## 特別出陳 唐招提寺 国宝木心乾漆薬師如来立像

本館 4月4日(火)～

本館中央室では、唐招提寺金堂の薬師如来立像(国宝)を特別陳列いたします。唐招提寺金堂の修理に伴い、薬師如来立像を本館で陳列することになりました。奈良時代末～平安時代初頭の傑作として名高いこの像が寺外で公開されるのは、造立以来千二百余年を経て初めてのことです。そびえ立つみごとな造形を間近にご鑑賞ください。



●薬師如来立像  
(唐招提寺)

## 特別陳列 クリーヴランド美術館蔵 大般若経厨子(仮称)

西新館 4月29日(土)～5月21日(日)

クリーヴランド美術館所蔵の大般若経厨子は、重要文化財の奈良国立博物館蔵品と同形式のもので、いずれももとは京都・神光院に伝来したとされるものです。今回、奈良国立博物館において修理作業が行われ、その作業が完成したのを機会に、当館で特別陳列いたします。クリーヴランド美術館と当館の厨子を一緒にご覧いただける、またとない機会ですので、是非ごゆっくりご覧ください。



大般若経厨子  
(クリーヴランド美術館)

## 平常展 仏教美術の名品

本館 4月4日(火)～ 西新館 6月20日(火)～

明治以来の伝統をもつ本館では、改修工事の完了に伴い、内容を一新した展示をオープンします。陳列作品は全て彫刻で、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、及びその源流ともいうべき中国などの諸作品を幅広く紹介します。多数の国宝・重要文化財を含む名品百点以上によって、彫刻の魅力を存分に味わっていただけます。今回のリニューアルを機に、平常展の充実ぶりにもぜひ目を向けてみて下さい。また、西新館では6月より、絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に名品の展示を行う予定です。



特別展 「明王―怒りと慈しみの仏―」 東・西新館 ※期間中、展示替えを行いますので、ご了承ください。

◎木造五大明王像(醍醐寺)、◎木造五大明王像(大覚寺)、木造五大明王像(当館)、◎絹本著色五大尊像(来振寺)、◎絹本著色五大尊像(観音寺)、◎五大尊像(当館)、◎絹本著色五明王像(一乗寺)、◎絹本著色五大尊像〔5幅のうち軍荼利明王・金剛夜叉明王〕、◎紙本墨画仁王経法本尊像〔密教図像 10 点のうち〕(以上東寺)、◎金銅五大明王鈴〔法隆寺献納宝物〕(東京国立博物館)、金銅五大明王五鈷鈴(東京国立博物館)、銅五大明王塔鈴(個人)、◎銅五鈷鈴(正智院)、◎金銅五鈷明王鈴(当館)、金銅大日不動明王坐像(東京国立博物館)、◎木造不動明王坐像(正智院)、◎木造不動明王坐像(大聖院)、◎木造不動明王坐像(般舟院)、◎木造不動明王坐像(大林院)、木造不動明王坐像(宝厳寺)、◎木造不動明王坐像(遍照寺)、◎木造不動明王坐像(外山区)、◎木造不動明王坐像(正寿院)、◎木造不動明王二童子立像(新薬師寺)、◎木造不動明王立像(国分寺)、木造不動明王立像(太山寺)、木造不動明王立像(東京国立博物館)、銅造不動明王立像(当館)、木造不動明王立像(神照寺)、木造不動明王立像(個人)、◎木造不動明王及二童子立像(峰定寺)、木造不動明王及二童子立像(法隆寺)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造不動明王立像(浄楽寺)、●絹本著色不動明王像(曼殊院)、◎絹本著色不動尊像(甚目寺)、絹本著色不動明王二童子像(瑠璃寺)、絹本著色不動明王二童子像(法光院)、◎絹本著色不動明王二童子像(法楽寺)、◎絹本著色不動明王二童子像(石山寺)、◎絹本著色不動二童子像(恵光院)、◎絹本著色十二天曼荼羅図〔寺伝安鎮曼荼羅〕(国分寺)、◎刺繍不動明王二童子像(浜松市美術館)、◎絹本著色不動明王三童子像(萬徳寺)、◎絹本著色不動明王三大童子五部使者像(延暦寺)、◎絹本著色不動明王八大童子像(当館)、◎絹本著色不動三十六童子図像(寶光寺)、俱利伽羅龍二童子像(文化庁)、●木造八大童子立像(金剛峯寺)、木造俱利伽羅龍立像(小武寺)、◎厨子入俱利伽羅龍剣(龍光院)、◎厨子入木造愛染明王坐像(仁和寺)、◎木造愛染明王坐像(放光寺)、◎木造愛染明王坐像(西大寺)、◎木造愛染明王坐像(当館)、◎木造愛染明王坐像(五島美術館)、愛染明王坐像龕(宝蔵院)、愛染明王香合仏(西禅院)、◎厨子入金属製愛染明王坐像(称名寺)、◎絹本著色愛染明王像(宝山寺)、木造愛染明王坐像(当館)、◎絹本著色愛染明王像(細見美術館)、◎絹本著色愛染明王像(総持寺)、絹本著色両頭愛染曼荼羅(個人)、◎絹本著色愛染明王像、◎絹本著色愛染明王像(以上根津美術館)、◎絹本著色両頭愛染曼荼羅図(金剛峯寺)、◎絹本著色愛染曼荼羅図(太山寺)、◎木造軍荼利明王立像(金勝寺)、銅造大威徳明王騎牛像(妙法院)、銅造大威徳明王騎牛像(個人)、◎木造大威徳明王像、◎絹本著色大威徳明王像(以上唐招提寺)、◎絹本著色大威徳明王像(談山神社)、◎絹本著色金剛夜叉明王像(醍醐寺)、◎木造孔雀明王像(金剛峯寺)、孔雀明王像(個人)、◎絹本著色孔雀明王像(智積院)、◎紙本墨画孔雀明王像〔密教図像 39 点のうち〕(醍醐寺)、◎絹本著色孔雀明王像(法隆寺)、◎絹本著色孔雀経曼荼羅図(松尾寺)、鳥瑟沙摩明王像(当館)、◎絹本著色鳥柙沙摩明王像(京都国立博物館)、◎絹本著色大元帥明王像〔四臂〕、◎絹本著色大元帥明王像〔八臂〕、◎絹本著色大元帥明王像〔三十六臂〕(以上醍醐寺)、◎紙本白描不動明王二童子毘沙門天図像(円通寺)、◎紙本墨画不動明王像〔密教図像 39 点のうち信海・円心筆〕(醍醐寺)、◎白描不動明王二童子像、◎白描不動明王二童子像(以上石山寺)、◎胎蔵図像(当館)、◎紙本墨画八大明王像〔密教図像 39 点のうち、宗実書写〕(醍醐寺)、白描不動明王図像(京都国立博物館)、◎紙本著色不動利益縁起(東京国立博物館)、◎紙本著色泣不動縁起(清浄華院)、不動儀軌(当館)、◎別尊雜記〔五菩薩五忿怒像〕(仁和寺)、弘法大師請来目録〔延慶四年隆賢書写〕(東寺)、◎空海請来目録(宝厳寺)、●大毘盧遮那成仏神変加持経(西大寺)、◎大日経疏(輪王寺)、◎高山寺典籍文書類のうち不動明王立印儀軌修行次第(高山寺)、◎理趣釈(仁和寺)、◎高山寺典籍文書類のうち降三世金剛瑜伽成就極深密門(高山寺)、◎石山寺一切経のうち仁王護国般若波羅蜜多經陀羅尼念誦儀軌〔一切経附第 2 函 32〕(石山寺)、高山寺典籍文書類のうち陀羅尼集経卷第八・九(高山寺)、◎甘露軍荼利菩薩供養念誦成就儀軌(法隆寺)、◎高山寺典籍文書類のうち大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌法(高山寺)、◎蘇悉地羯羅經(高野山大学)、◎金剛峯楼閣一切経瑜伽瑜祇経〔像内納入品〕(西大寺)、◎高山寺典籍文書類のうち阿吒薄俱元帥大將上仏陀羅尼経修行儀軌(高山寺)、◎孔雀経 卷中下(仁和寺)、◎石山寺校倉聖教のうち孔雀明王画像壇場儀軌〔校倉聖教第 13 函 17〕(石山寺)、◎金剛峯楼閣一切経瑜伽瑜祇経〔像内納入品〕(当館)

特別出陳 本 館

●木心乾漆薬師如来立像(唐招提寺金堂安置)

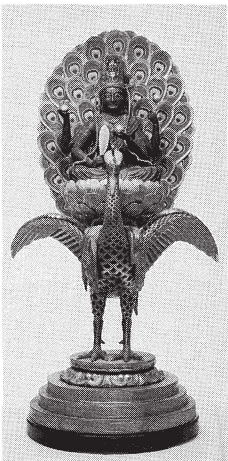
特別陳列 西新館

大般若経厨子 (クリーヴランド美術館)、大般若経厨子 (当館)

◎＝国宝 ◎＝重要文化財 出陳品は、都合により一部変更する場合があります。

特別出陳 西新館

◎薬師三尊像 (薬師寺講堂安置)



◎孔雀明王坐像  
(金剛峯寺)



◎金銅五大明王鈴  
(東京国立博物館)

平常展 「仏教美術の名品」

本館 4／4～

第 1 室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ◎乾漆薬師如来立像(唐招提寺)、◎乾漆・木造梵天立像、◎乾漆・木造伝救脱菩薩立像(以上秋篠寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像、◎銅造灌仏盤、◎木造西大門勅額、◎銅造光背(二月堂本尊光背)(以上東大寺)、◎乾漆光背(十一面観音所用)(聖林寺)、◎乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎乾漆阿閼如来坐像(西大寺)、◎乾漆舍利弗・目犍連立像、◎乾漆緊那羅立像(興福寺)、◎銅造法華説相図(長谷寺)、◎木造菩薩立像(金龍寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎鳳凰文塼、方形三尊塼仏(南法華寺)、天華寺跡出土塼仏、伝橘寺出土塼仏、夏見廃寺出土塼仏(以上当館)

第 2・3 室 平安・鎌倉時代の彫刻 ◎木造薬師如来立像(元興寺)、木造如来立像(当館)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造十一面観音像立像(薬師寺)、◎木造観音菩薩立像(観心寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造観音菩薩立像(セゾン現代美術館)、木造菩薩立像(当館)、◎木造阿弥陀如来立像(裸形阿弥陀)(浄土寺)、◎木造増長天立像、◎木造多聞天立像(以上当館)、◎木造広目天立像、◎木造行賀坐像(以上興福寺)、◎木造十一面観音立像(元興寺)、◎木造千手観音立像(妙法院)

第 4～6 室 ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻 〈ガンダーラ〉石造如来立像、石造菩薩立像(以上個人)、ストゥッコ如来坐像、ストゥッコ如来頭部、石造貴婦人群像(以上小原流豊雲記念館)、石造仏伝図浮彫(当館) 〈中国〉銅造仏三尊飾板、銅造仏坐像、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上個人)、方形独尊坐像塼仏、方形阿弥陀三尊塼仏(以上当館)石造菩薩半跏像、石造如来頭部〔雲岡〕、石造菩薩頭部〔鞏県〕、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏浄土碑群像、◎石造三尊仏龕(以上個人) 〈朝鮮半島〉銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

第 7～13 室 日本彫刻の諸相 ◎木造十一面観音立像(海住山寺)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造弥勒仏坐像、◎木造伎楽面・力士、◎同・醉胡徒、◎同・太孤父(以上東大寺)、◎同・力士(神童寺)、木造獅子頭、木造舞楽面・崑崙八仙、同・二ノ舞(腫面)(以上当館)、◎同・新鳥蘇、◎同・菩薩(以上手向山八幡宮)、◎同・陵王(氷室神社)、◎銅造誕生仏立像(正眼寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)、◎銅造菩薩立像(金剛寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、銅造観音菩薩立像(当館)、◎木造釈迦如来立像〔清涼寺式〕(当館)、木造阿弥陀三尊立像(峯定寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、木造地藏菩薩立像(長谷寺)、◎木造飛天、◎木造大黒天立像(以上興福寺)、木造南無仏太子立像(西大寺)、◎木造聖徳太子立像(成福寺)、◎木造十二神将立像〔辰・未〕(室生寺)、木造地藏菩薩立像(個人)、◎木造愛染明王坐像、木造如意輪観音坐像、木造地藏菩薩立像、◎木造十一面観音立像、木造吉祥天倚像、木造蔵王権現立像(以上当館)、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)、木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、◎木造八幡三神像(薬師寺)、木造伊豆山権現立像、木造男女神像(当館)、木造狛犬(植槻八幡神社)、◎銅造阿弥陀如来立像(善光寺)、銅造薬師如来立像(個人)、銅造釈迦如来坐像(園城寺)、銅造不動明王立像(当館)、鉄造阿弥陀如来立像(西法寺)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造十二神将立像(東大寺)、●板彫十二神将立像〔波夷羅・珊底羅〕(興福寺)、大日如来坐像(西城戸町)、木造仏頭、木造菩薩頭(以上松尾寺)、木造阿弥陀如来坐像、◎木造地藏・龍樹菩薩坐像(以上当館)

西新館 6／20～

【考古】土偶、深鉢形土器(以上当館)、銅鐸(妙国寺)、銅鐸〔和歌山県南部川村出土〕、北和城南古墳出土品、装飾付器台付子持須恵器(以上当館)、奥山久米寺出土蓮花文鬼瓦(京都国立博物館)、◎大安寺出土鬼瓦(個人蔵)、上野廃寺出土隅木蓋瓦、◎佐井寺僧道葉墓出土品、◎出雲萩杉古墓出土品(以上当館)、◎青磁鉢(正暦寺)、◎伝福岡県出土経筒・如来像、◎長崎・鉢形嶺経塚出土弥勒如来像、◎伝福岡県出土経筒・外筒、伝愛媛県北条市出土陶製経筒、和歌山・粉河経塚出土品、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉緑彩水注、青磁双耳瓶、青白磁水注、青白磁花唐子文輪花鉢、青磁花唐子文鉢(以上当館)

【絵画】◎釈迦八相図(大福田寺)、◎仏涅槃図(正暦寺)、◎釈迦三尊像(頼久寺)、普賢十羅刹女像(能満院)、◎十六羅漢像(長寿寺)、法華経曼荼羅(当館)、両界曼荼羅(西大寺)、法華曼荼羅(下部神社)、◎一字金輪曼荼羅(当館)、◎五大虚空蔵像(大覚寺)、◎行基菩薩行状絵伝(家原寺)、◎善導大師像(知恩寺)、真宗八高僧像(瀧上寺)、◎法然上人行状絵(奥院)、善恵上人絵(浄橋寺)、◎遊行上人絵(光明寺)

【書跡】◎星尾寺縁起、◎高弁夢記(以上高山寺)、◎神護寺如法執行問答、神護寺交衆任日次第、諸菩薩求仏本業経(五月一日経)(以上当館)、◎大般若経〔魚養経〕(薬師寺)、紺紙金字法華経卷第七(興聖寺)、紺紙金字法華経卷第七、大般若経卷第一百七十四・百七十八、大般若経卷第四百二〔源豪一筆経〕(以上当館)、般若心経(海住山寺)、版本大般若経卷第三百六十五(当館)

【工芸】◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、金銅金亀舍利塔(長谷寺)、木製獅子舍利塔(金剛寺)、百万塔および陀羅尼(当館)、◎銅経筒(施福寺)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、◎木製彩色華鬘(霊山寺)、◎金銅種子華鬘、金銅尾長鳥文華鬘(以上当館)、金銅透彫幡(個人蔵)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、響銅王子形水瓶〔承盤付き〕、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶(かぶら形)、金銅仙蓋形水瓶(以上当館)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)、●金銅透彫華籠(神照寺)、◎紙胎漆塗彩絵華籠、◎黒漆戒体箱(以上万徳寺)、金銅説相箱(個人蔵)◎金銅密教法具(厳島神社)、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵(以上当館)、◎独鈷鈴、◎三鈷鈴(以上個人蔵)、五鈷鈴(当館)、◎宝珠鈴(個人蔵)塔鈴、◎梵鐘、梵鐘、刺繍種子阿弥陀三尊像、黒漆蝶螺鈿卓、金銅火舎、金銅花瓶、黒漆磬架、孔雀文磬(以上当館)



◎銅造誕生釈迦仏立像ならびに灌仏盤  
(東大寺)



◎板彫十二神将立像  
〈波夷羅大將〉(興福寺)



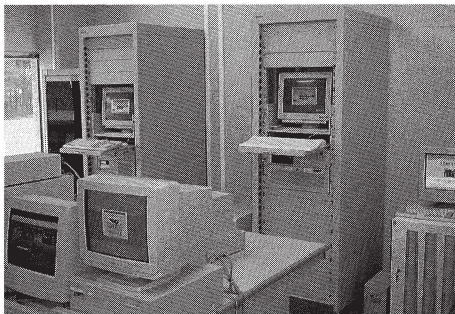


## インターネットと図書館、そして博物館

「インターネットと図書館」というと、どんなものを思い浮かべるだろうか。数年前、あるコンピュータ・メーカーのテレビCMでこんなシーンがあった。田舎道を歩く老人が孫娘に嬉しそうにこう語る。「インターネットでインディアナ大学の蔵書を利用して博士論文を仕上げたよ」。日本でも、学术论文の全文を検索できるシステムが大学を中心に開発されているし、有名なところでは『青空文庫』や米国の『ゲーテンベルグ・プロジェクト』というような、著作権の保護期間が過ぎた古典文学などの全文テキストを無料でダウンロードしたり閲覧できるサービスもある。

1945年、米国の科学者ブッシュは『アトランティック・マンスリー』という雑誌に、Memexという空想上のシステムについての論文を書いた。それは機械化された個人用図書館ともいえるべきもので、個人がすべての記録類を蓄積し、速く柔軟にこれを検索することができる。この装置にはスクリーンがあってそこに資料が映し出されるが、必要な情報は何時でも何処からでも参照でき、ある情報から関連する情報へとさらに進んでいくこともできる。それは科学者としての自分の理想的な研究空間を描いたものだろう。『As We May Think (人の思考のように)』と論文のタイトルにあるように、私たちがまさに頭の中で記憶を辿るように、記録された知識を自由に検索できるシステムを想像した。このシステムは、現在のインターネットやハイパーテキスト概念の原型とされている。以前は夢物語だったものが、現実には近づきつつあるのが昨今の状況だろう。

こうした様々な電子図書館が既存の図書館に置き換わる、という考え方が一方にあるが、それに対して反発的な意見を目にすることもある。しかし、これから先はともかく、過去に生産されたすべての文字情報がデジタル化されることは殆ど不可能に近く、それだけでも、図書館が電子図書館に完全に置き換わることが現実的ではないことは理解できるだろう。さらに、図書館には、コレクションの集積以外に、文献や情報を自由に利用できる空間やその機会の提供、という一種シンボリックな役割があり、それとも忘れることはできない。



奈良国立博物館のコンピュータ室

それでは博物館はどうであろう。電子博物館、デジタルミュージアムといった言葉が耳にする機会も増えてきた。博物館にはデジタル化という言葉がすんなり馴染まない、と感じられる方もいるだろう。図書館がデジタル化に親和性があるのは、主に文字情報を扱っているということと、それが本来複製可能な情報であるという点に他ならない。それに比べると、博物館では、唯一かけがえのないものを扱っている点が決定的に異なる。そこで、博物館でのデジタル化は、図書館とは別の視点で様々なアプローチをとる可能性がある。しばらく前になるが、東京大学総合研究博物館では銅鐸の音を再現し、その音をインターネット上で聞けるようにして話題になった。他にも動画や音声を使って工夫をこらしたものなどいくつも見られる。しかし、最も一般的なのは、作品や展覧会に興味をもち、実際に足を運んでいただくための入り口

となるもので、多くの博物館や美術館がホームページで収蔵品や展覧会の情報を提供している。こうしたものは、博物館のデジタル化というより、機能の一部を補完するものといえるだろう。インターネットで公開している収蔵品情報に関しては、1996年から文化庁が「共通索引システム」の公開をはじめ、各館を横断的に検索出来るシステムの構築を進めている。文化財や美術品の所在や基本的な情報を誰もが簡単に入手できる状況が整いつつある。これも博物館とインターネットの関係を探る試みの一つといえるだろう。

さて、奈良国立博物館でも、1996年にホームページを開設して以来、その内容の充実にも努めてきた。展覧会予定と概要をお知らせするのももちろんのこと、名品162件を画像と解説付きで紹介している。また、所蔵する写真フィルムの情報をデータベースに蓄積して提供することも順次おこなっている。このデータベースは画像が限られているもののインターネットを通して利用でき、最近、画面構成も見やすいものに変更した。作品の精細な画像や文字情報はもちろん、貴重な資料や、図録や紀要などに掲載される新しい研究成果、また、文化財に親しんでいただくために工夫をこらした子供向けの情報など、インターネットを通して公開し、利用していただきたいと考えている情報はまだまだたくさんある。



博物館の展示室で、独特の空気に包まれながら作品に直面し、そして心地よい疲れを感じながら休憩用の椅子に腰掛けて、いま見てきた作品の記憶を反芻する、といった体験は、博物館に訪れる人、ひとりひとりのものとしてこれからは残るだろう。それは仮想的な空間で得られるものとは異なり、簡単に何かに代替されるものではない。しかし同時に、出来るだけ美しい画像と、可能な限りの文字情報を提供して、インターネットの利用者と博物館の観覧者を繋いでいくことも、今後の博物館の重要な使命ではないだろうか。博物館でも、未来のあるべき姿を描くならば、いつかそれが現実

に近づくものと願いつつ、あゆみを進めていきたい。



ホームページ



## ◆公開講座 特別展「明王―怒りと慈しみの仏―」に関連するものです。

5月6日(土)	日本の明王―信仰とその美術	前嵯峨美術短期大学長	中野 玄三
5月13日(土)	愛染明王―信仰の展開とその造形	京都大学助教授	根立 研介
5月20日(土)	明王をあらわした金剛鈴	当館学芸課長	阪田 宗彦
5月27日(土)	明王誕生の秘密―成立の歴史的意義―	国際日本文化研究センター教授	頼富 本宏

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

## ◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

4月12日(水)	唐招提寺薬師像と奈良・平安時代の彫刻	当館美術室員	稲本 泰生
5月10日(水)	明王の絵画	当館企画普及室長	梶谷 亮治
5月17日(水)	大般若経厨子について	当館工芸室員	伊東 哲夫
5月24日(水)	明王の彫刻	当館主任研究官	岩田 茂樹
6月14日(水)	奈良国立博物館の彫刻展示	当館学芸課長	阪田 宗彦

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

## ◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「鎌倉時代の歴史と美術」をテーマに勉強します。

5月13日(土)現地見学(東大寺と興福寺の仏像)／6月10日(土)鎌倉時代の彫刻／7月8日(土)鎌倉時代の工芸／9月9日(土)鎌倉時代の絵画／10月14日(土)歩いて歩いて一遍上人／12月9日(土)現地見学(蓮華王院〈三十三間堂〉)／平成13年1月13日(土)さまざまな塔のかたち／2月10日(土)「鎌倉時代の歴史と美術」のまとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学科金が必ず必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

## ◆夏季講座

7月下旬に開催予定。詳しい内容は、国立博物館ニュース6月号に掲載予定。募集要項は、当館の受付で6月中旬から配布しますが、郵送希望の方は「夏季講座要項希望」と明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して普及室まで御請求ください。郵送は6月中旬になります。

## ◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分間)を予定しています。この他、予約をすれば講堂または学習室でボランティアがコンピューター画面などに合わせて「ぶつぞう入門」「奈良の社寺と仏像」の解説をします。お問合せは学習普及専門官(TEL0742-22-7008)まで。

**開館時間** 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

**休館日** 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。)

**観覧料金** 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料

特別展		大人	高・大生	小・中生	平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	830円	450円	250円		一般	420円	130円	70円
	団体	560円	250円	130円		団体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。特別陳列は、平常展料金でご覧いただけます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。